

先生各位

## 受託中止項目および新規検査項目のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記のとおり、受託中止項目および新規検査項目のご案内をさせていただきます。  
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

### 受託中止項目

《最終受付日》 平成 25 年 4 月 13 日(土)まで受託

《中止項目》

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	代替項目
P.67	0880	クロストリジウム ディフィシル抗原	C.ディフィシル 抗原・毒素 【検査コード 7946】 下記参照

《中止理由》 新規項目社内実施による既存項目コード中止のため

### 新規検査項目

《受託開始日》 平成 25 年 4 月 15 日(月)受付分より

《検査要項》

検査項目名称	C.ディフィシル 抗原・毒素
検査コード	7946
JLAC10	5E110-0000-015-190-11
検体量	糞便 0.5g
容器・保存	K、T3・冷蔵
実施料(判断料)	80点(免疫)
所要日数	1 ~ 2日
検査方法	イムノクロマトグラフィー法
基準値	抗原：陰性 / 毒素：陰性

保険収載名称：クロストリジウム・ディフィシル抗原定性

抗原の結果はコード7947、毒素の結果はコード7948にてご報告致します。

《 解 説 》

*Clostridium difficile* は抗菌薬投与後等に発症する腸炎や医療関連感染(院内感染)の主要な病原菌であり、その病原性は*C. difficile* の産生する毒素 (Toxin A 及び B) によるものと言われております。C.ディフィシル抗原 / 毒素は、Toxin A、Toxin B の鑑別はできませんが毒素と抗原を同時に検出致します。

抗原	毒素	解釈
陽性	陽性	<i>C. difficile</i> の存在と毒素の存在を示し、 <i>C. difficile</i> 感染症の可能性が高いことを示唆します。
陽性	陰性	培養法等により確認する必要があります。
陰性	陰性	<i>C. difficile</i> 感染症の可能性が低いことを示唆します。

《現行法との比較》

検査項目名称	変更内容	新 法	現行法
C.ディフィシル 抗原・毒素	項目名称	C.ディフィシル 抗原・毒素	クロストリジウム ディフィシル抗原
	検 査 コード	7946	0880
	検体量	糞便 0.5g	糞便 1g (母指頭大)
	所要日数	1 ~ 2 日	2 ~ 3 日
	検査方法	イムノクロマト グラフィー法	ラテックス スライド凝集法
	基準値	抗原：陰性 毒素：陰性	陰性

《相 関 性》

抗原

		現行法		合計
		陽性	陰性	
新 法	陽性	5	5 <sup>1)</sup>	10
	陰性	0	13	13
合計		5	18	23

1)4 例は培養法陽性、1 例は培養法陰性であったが CD 毒素陽性

毒素

		現行法		合計
		陽性	陰性	
新 法	陽性	5	1 <sup>1)</sup>	6
	陰性	1 <sup>2)</sup>	16	17
合計		6	17	23

1)培養法陽性、CD 抗原陽性  
2)培養法陰性、CD 抗原陰性